

竹川病院 櫻井 瑞紀(理学療法士)

- 功 績** 学術誌「理学療法学」に、原著論文 「非特異的腰痛者におけるサイドブリッジ時の体幹深部筋疲労解析」が掲載された功績。
- 推 薦 者** 可児 利明
- 推 薦 理 由** 竹川病院リハビリテーション部は毎年多くの学会発表を行っております。残念ながらこれまでは学会発表にとどまり、論文投稿にまでは至りませんでした。しかし今回、学術誌「理学療法学」に、原著論文が掲載されたことは理事長賞にふさわしい功績と考えます。

内 容

櫻井瑞紀さんは竹川病院リハビリテーション部に新卒で入職し、10年目となる理学療法士です。今年度よりリハ部の主任として、また主に学術的活動の中心的存在として、学術部の責任者を担っております。入職時より高い志を持ち、臨床業務だけでなく大学院での研究活動も視野に業務にあたっております。

6年目には、首都大学東京大学院人間健康科学研究科理学療法科学域博士前期課程に入学し、2年前より同大学院博士後期課程に進学し、現在在学中です。

今回その長年の研究成果を論文にまとめ、学術誌「理学療法学」に投稿し、原著論文として 「非特異的腰痛者におけるサイドブリッジ時の体幹深部筋疲労解析」が掲載されたことは彼の努力の賜物であります。

特筆すべきは、学術誌への投稿は大学や研究機関などの環境に勤務する者が比較的多い中、病院勤務の理学療法士として忙しい臨床業務と並行してこれを成し得たことです。リハ部における治療の結果をデータベース化し、蓄積することで日々の業務に還元し質の向上に貢献しています。また、まとめた結果をリハ医学会や回復期病棟協会主催の学術集会での発表へと繋げています。

研究だけに特化するのではなく、臨床家としても手を抜くことなく、真摯に患者と向き合っています。さらには、自身が学んだことを後輩へ教育という形で還元してくれています。

「臨床」「研究」「教育」の3本柱をしっかりと実践し、他者の手本となる使命感と専門性の高い理学療法士です。